



☆最新発掘速報 1 小井川（こいかわ）遺跡（中央市布施） 木製の補強材が使用されたカマドを発見！

今年度の5月から8月まで新山梨環状道路の建設に伴い発掘調査が行われた中央市(旧田富町)布施地区にある小井川遺跡では、平安時代（9世紀後半）の竪穴住居跡が発見されました。この住居跡に設けられたカマドは粘土で作られていましたが、粘土の中には木の杭のようなものがカマドの両側に4本から5本ずつ打ち込まれていました。小井川遺跡周辺は地下水の水位が高く、水分を多く含む砂地の土の中に遺物が保存されていたために、1,000年以上前の木材も当時とあまり変わらない状態に保たれていました。カマドは石や粘土を使って火を焚く部分の覆いを作り、粘土を補強するために石や土器を使用することがありますが、おそらくこの木の杭も粘土の補強材として用いられたものと考えられます。カマドの補強材として木材を使用する例は珍しく、カマドを作る技術の新しい発見になりました。

今年度調査した地点は、調査区のほぼ全体が旧釜無川の流れてによって運ばれた砂礫に覆われていましたが、その下には竪穴住居跡の発見された平安時代の地表面が残っていました。平安時代には遺跡周辺に集落が広がっていたと考えられます。遺跡の東側では、昨年度実施した調査により中世の荘園「布施荘」の存在を示唆する戦国時代の大型建物跡が発見されました。布施荘は文献上では『中右記』の中で元永2（1119）年に現れています。今回の調査で平安時代の住居跡が発見されたことは、平安時代末期には成立していたとされる布施荘につながる集落がこの地に存在していたことを裏付ける貴重な資料となりました。



発見された竪穴住居跡のカマド



カマドに打ち込まれた木の杭

☆最新発掘速報2 ^{ひま めげ} 谷抜遺跡 (南都留郡富士河口湖町河口)

縄文時代早期の料理跡

谷抜遺跡からは江戸時代・平安時代・縄文時代早期・後期の土器片や石器などの遺物や柱穴などの遺構がみつかりました。

縄文時代の遺物・遺構は、今からおよそ7,000年前の縄文時代早期とよばれる時代のもので、地面から約2.5mの深さから発見されました。遺構は柱穴と炉穴が発見されました。炉穴は屋外の調理場とされ、人が中に入って座れる幅で、長細い穴の底は火を受けて赤く変色していました。

穴の中からは土器片が出土しており、この土器を使って煮炊きをしていたのかもしれません。

見つかった炉穴



☆最新発掘速報3 ^{きた たな が} 北田中遺跡 (甲州市勝沼町山)

大量の土器片が語るもの

甲州市を流れる重川、そのすぐ南岸にある北田中遺跡では約130㎡の狭い範囲から大量の土器片が出土しました。

川の堆積層からまとまった数の土器片が出土した場合、ふたつの可能性が考えられます。ひとつは、そこが祭りを行なった場所である可能性です。この場合、出土する土器は坏などの祭祀に用いられるものとなります。もうひとつの可能性は集落から、川によって土器が流されてきたものです。

出土した土器を確認したところ、そのほとんどが古墳時代の甕など、日常の煮炊きに使われたものでした。

これらの事実から、出土した土器は集落から流されてきたものと考えられます。それはつまり、古墳時代後期には北田中遺跡の付近で水田をつくり、集落がつくられるようになったことを表しているのです。

